

ひとりひとりひかる

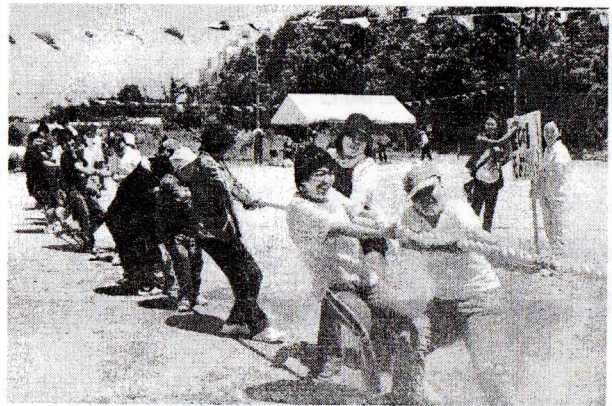
きぼう

2009 7/1
第57号

発行：かしの木の会/かしの木の里内 一宮市富田字砂原 2147 : kasisato@f7.dion.ne.jp

榿の木園 : kasien@k3.dion.ne.jp 榿の木作業所 : kasisyo@k2.dion.ne.jp

かしの木 ホームページ [http : www.h3.dion.ne.jp/~kst/](http://www.h3.dion.ne.jp/~kst/)



平成21年度 榿の木運動会開催！

平成21年6月7日(日)に一宮市富田の富田山グラウンドで、今年も盛大に榿の木運動会が行なわれました。晴天ではなかったのですが、スポーツするにはふさわしい天気の中、綱引きや大玉ころがしの競技を楽しみました。日頃会うことも少なくなった榿の木5施設の利用者さんも、今日ばかりは・・・と、交流を深めました。

【57号きぼうの目次】

- 表紙・写真・目次・・・・・・・・・・ P. 1
- 福祉情報コーナー①/地域移行について・・・・ P. 2
- 福祉情報コーナー②/地域交流について・・・・ P. 3
- かしの木の会コーナー/総会・・・・・・・・ P. 4
- かしの木の会コーナー/バザー委員会・・・・ P. 5
- 施設コーナー①/榿の木作業所「さいた」・・・・ P. 6
- 施設コーナー②/ステップ・・・・・・・・ P. 7
- 施設コーナー③/らちえっと・・・・・・・・ P. 8
- 文芸コーナー/・・・・・・・・ P. 9
- お知らせコーナー/予定など・・・・ P. 10

福祉情報コーナー

地域移行について

一宮市も稲沢市も、第Ⅱ期障害福祉計画を策定し、公表しております。これは、すべての市町村が、21年～23年の3年間の福祉の目標を掲げその実現を目指すものです。どの市町村も、第Ⅰ期である18年～20年の成果をまとめ、利用者のニーズ、福祉事業者の意見を聞き、新しい課題を探り、その市町村独自の福祉目標を立てました。その中で特に目を引くのは、両市ともその障害福祉計画の中に、地域移行と就労促進を重点課題として掲げていることです。

地域移行とは、入所施設や精神病院での集団生活から、障害のある人個々の状態やニーズにあった支援を充実させ、自己決定、自己実現ができる場に移行することです。そのためには、グループホーム、ケアホーム等の設置などの基盤整備が必要です。また、自宅等に戻られる方には、支援者の確保とともに、住居の環境整備が必要となってきます。複数の障害福祉サービスを組み合わせ、支援にあたることも必要になってくるでしょう。しかし、そこには病院での生活、施設での生活では手に入れられなかったものがあるはずです。地域移行を目指す方は、その充実感を求めてチャレンジする方も少なくないはずです。

生活場面の地域移行と同じように、日中活

動において地域移行があります。福祉施設から一般企業への移行、すなわち一般就労です。福祉計画の中には、障害者が安定した質の高い生活がおくれるよう、一般企業、ハローワーク、就労支援事業者と連携し、雇用機会の確保拡大を図ることを目指していると言われています。

自立支援法が施行されはじめた時、日中活動の自立を目指しての一般就労に、ウエイトを置いた施策であったような気がします。ジョブコーチ制度やトライアル雇用といった制度も整えて、福祉的就労から一般就労への移行を促しました。しかし、ここに来ての不況・・・

障害者福祉計画は、所詮自治体という数十万人という共同体での目標であり、数値目標は、全国や県のデータに基づく比率としての人数です。

地域移行を目指している方、一般就労先を探している方は、それぞれご自分の課題と目標を持ち活動してみえるのではないのでしょうか。福祉計画、数値目標も大切ですが、私たち支援者や行政の福祉担当者は、今まさに、地域移行、一般就労にチャレンジしていこうとする一人ひとりに目をむけなければならないと思います。そうすれば、はっきりと何が必要か見えてくるはずです。それを、用意するのが、支援者であり行政なのです。

榎の木作業所 只井 秀明

福祉情報コーナー

地域交流事業について

施設と地域との交流といえば、すぐ思い浮かぶのが「バザー」そして、「フェスティバル」等の行事です。施設は、地域の中に点在はしていますが、地域の方との交流は少なく、これらの行事の時に、一年間分の交流をし、また来年・・・となっていたように思います。言い換えると、ノーマライゼーションの言葉の意味を知ってはいるものの、それをどのように実現するかが課題でした。

施設の中に一般の人を招き入れることは大変です。でも、施設の利用者が地域に出て行くことは、日中活動のカリキュラムを検討すれば可能です。そして、交流を持つ場所と内容が手に入れば・・・

檜の木園は、平成19年に喫茶店「カフェふらっと」を一宮市萩原町にオープンしま



した。萩原町の商店街、町内会のお仲間に入れていただき、2年たった今では地域に少しとけ込んだようです。というのも、利用者との交流を求めて、なじみのお客さんに多く来ていただけるからです。施設内での作業では得ることのできなかつた地域の方々との交流が、絶えず手に入るのです。これが、利用者も職員もやりがいになっています。

平成20年5月、今度は檜の木作業所が地域交流の場として「園芸センターさいた」をオープンしました。これも、檜の木作業所に近い、西五城に地域の方の協力を得てビニールハウスを建てさせていただきました。そして、花苗の栽培、育成、販売を行っています。施設内での花苗育成には、立ち寄れなかった方も、施設とは違った開放された空間で立ち寄りやすいのか、1週間おきにきてくださる方もみえます。「園芸センターさいた」は、花苗好きの方の心をつかんだように思えます。

そして、今年5月11日にオープンしたサポートプラザ喫茶店「おやまのカフェ」と雑貨屋「こまこま」。まだまだ、一宮市北丹町という新しい場所で、少しずつ地域の方々に理解されながらとけ込もうとしています。一宮市とタイアップした事業と平行して多くの方の利用を期待したいものです。

さらに、檜の木作業所の敷地内で準備を始めている第4の地域交流



の事業。愛知県の施設整備の補助金を活用させていただき、2階建ての店舗兼作業棟が完成しました。まだ、黄色いカーテンに覆われて、内容がはっきりしませんが、少しずつ準備を始めています。さて、どのようなものができるか楽しみです。

檜の木作業所 職員

かしの木の会コーナー①

総会を終えて

4月26日に、多数の御来賓の方々をお迎えし、20年度(第29回)のかしの木の総会を開催することができました。

来賓の方々からは、福祉法の変革及び景気の悪い中ですが、我々の地域に対する貢献について励ましのお言葉を頂き、ありがたく思いました。

第二部では、20年度の各委員会から事業報告及び会計報告が提案され、審議の結果賛成多数で可決し、続いて、21年度の事業計画案と予算案が提出され、審議の結果賛成多数で可決致しました。

役員交代について

今年度は役員改選の年で、三役及び各委員会の役員も交代いたしました。(一部留任)会長については、先々代の会長(小塚さん)の後継者として会長を引き継いで頂いた堀江会長が退任され、黒原さんが選任されました。

堀江前会長には10年の長きにわたり、会の統制を図りながら、リードして頂きました。特にこの10年間は、福祉に関する法律の変化が目まぐるしくありました。制度の変更、措置制度から自立支援法に変わり、障害者の判定区分等もあり、区分によって自己負担も変わりました。一方では、各施設の事業の変動もあり大変な時期に、会の舵取りで苦勞されたと思います。

私達の子供の将来を考えて、グループホーム、ケアホーム等の準備設立をして一人でも多く、地域で暮らせるように、福祉と協力しながらの尽力を尽くしていただきありがとうございました。今後は、会の顧問役として相談、アドバイスをお願いしました。

一方、顧問役を務めて頂いた理事長の岡田さんも、この3月をもって退任されました。岡田さんには、10年間を顧問

として会の相談、アドバイスをして頂きありがとうございました。

岡田さんも3月をもって理事長を退任されました。長い間ご苦勞さまでした、ありがとうございました。

21・22年度は下記の役員が運営委員です。

会長・・・・・・・・黒原
顧問・・・・・・・・堀江
副会長・・・・・・・・小木曾・小塚(峰)
事務局/総務・・・・・・・・橋本・石田・只井
/会計・・・・・・・・中桐・入山
広報委員会・・・・・・・・鶴飼・若山
研修委員会・・・・・・・・樋江井・道家
バザー委員会・・・・・・・・中桐・森
イベント委員会・・・・・・・・高松・夏目
あっとホーム委員会
(麦の会)・・・・・・・・寛
(てのひらの会)・・中村

以上のメンバーでがんばりますので
よろしくをお願いします



堀江会長、長い間ご苦勞さまでした。今後も顧問として御指導
お願いします。

かしの木の会コーナー②

バザー委員会

今回は、バザー委員会の仕事のうち物資販売についてお知らせします。

この時期は、春季のカタログが届いて注文もしていただいていると思われます。物資販売の仕事は、まずカタログを綴じることからはじまります。14～5枚のカタログを、350部ほど束ねます。会員は、和気藹々と仕事を進めますが、さすがに300部を過ぎると、疲れ気味に・・・

次に、会員の氏名と住所を書いた紙によって丸く筒のように巻き、施設ごとに分けて配ります。

みなさんが、そのカタログを見て、注文されます。多い人は、近所やサークルにも声をかけていただき30名ほどの注文を集めていただける人もいますし、一人で5万円ほど購入していただける人もみえます。こうして、集められた注文書をまとめ上げるのが大変です。これは、榎の木福祉会の事務の方にお願ひし、パソコン入力してもらっています。注文もその集計が済んでから、一括して発注します。

ここまでは、事務的な仕事が多かったのですがこれからが、正念場で体力勝負の仕事が続きます。

まずは、納品物品の検品と餞別です。100以上の品物が・・・ダンボールも50個以上・・・しかも、1つのダンボールの中に数種類入っているのもあり、悪戦苦闘です。部屋いっぱい、記号順に、品物を並べるだけで半日が費やされます。

次に、袋づめです。いや、ダンボールづめと言った方がいいかも知れません。一人ひとりの注文書を読み取りながら、品物を拾っていくのです。まさに、体力勝負です。そして、間違えてはいけ

ないという責任感も必要で、大変な仕事です。最後に受け渡しという仕事。注文されたみなさんが、代金と引き換えで品物を持って帰られます。袋詰めされたものが引き取られ、数が減っていくとほっとします。また、品物を受け取られた方が、「ありがとう、ごくろうさま」と声をかけていただくともたほっとします。

物資販売の受け渡しは、2日間。まさに、悪戦苦闘の2日間です。ただひたすら、この物資販売での収益が、かしの木の会のため、かしの木の利用者のため、地域の福祉のために役立てばとの思いだけで、がんばっています。

バザー委員 中桐

※ バザー用品提供のお知らせ ※

かしの木の会では、8月10日開催予定の「盆踊り大会」において、不用品バザーを実施します。つきましては、ご家庭で眠っている不用品等がございましたら、ご提供をお願いします。

お願いしたいもの

家庭用品 (タオル・シーツ・鍋・食器・石鹸等)

衣料品 (新品または新品同様の物)

かばん・靴・本

布地 (綿のみ)

食料品 (未開封で、期限切れでない物)

(お断りさせていただくもの)

家具・電気製品・人形・ぬいぐるみ・干支置物

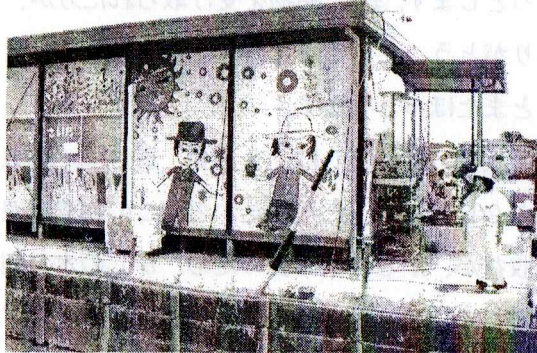
楽器・他バザーの残り物など

持ち込み先 かしの木の里

0586-63-2111

受付期間 7月5日～8月2日

施設コーナー① 園芸センター「さいた」

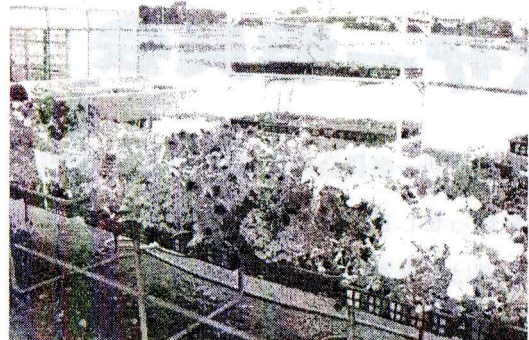


檜の木作業所園芸班「さいた」が始まって、2年目になります。利用者さんや職員の異動もありまして、「さいた」グループは、現在利用者7名、職員2名で活動しています。今春大学を卒業した私は、「さいた」に配属になり、利用者さんからも先輩職員からも1から教えていただいています。種のまき方にも技術がいり、水遣りの仕方にもコツがあるのです。

一緒に活動する利用者さんへの支援のことも考えながらの仕事で大変ですが、やりがいもあります。それは・・・

丁寧に育てた草花が、芽を出し、花をつけてくるととてもうれしいし、お客さんがたくさん買いに来てくれるとうれしいのです。そして何よりうれしいのは、自分たちが育てた花が売れて喜ぶ利用者さんの笑顔を見るときです。

現在、「ペチュニア」「マリーゴールド」「アスター」「けいとう」などが咲き乱れています。花苗以外にも、「トマト」「なす」「かぼちゃ」「すいか」などの野菜苗も販売しています。



ビニールハウスの横には、野菜も自家栽培しています。「すいか」を大きく育てて檜の木作業所の皆さんで食べるのが夢です。

営業日は、月曜日から金曜日です。営業時間は、午前9時30分から午後3時までです。毎週水曜日には、小菊の切花も販売しております。是非、「さいた」に一度おいでください。

花苗 1ポット 50円
12ポット 500円



また、お電話での注文もお受けしていますのでよろしくお願いいたします。私が、利用者みなさんとお届けしますよ。

ご注文は下記まで

TEL&FAX

0586-62-0039

檜の木作業所 支援員 石原麻衣

施設コーナー②

就労移行事業所「ステップ」 ～就労支援について～

今回のこのコーナーはステップの順番らしく、ステップに着任してわずか2ヶ月の私を書くことになってしまいました。正直、ステップのことはまだあまりよくわかっていないのに…（ステップの皆さんスイマセン…）。で、ステップのことというよりも、就労移行支援について最近考えていることなんかを書いてみようかと…。

自立支援法になって、国が就労支援に相当力を入れてきたことは、皆さんもご承知のことだと思います。就業・生活支援センターの増設、ジョブコーチの拡充などの施策や、就労移行支援事業への報酬単価などを見てみれば、その力入れ具合がよくわかりますよね。しかしながら、それだけで就労移行が進むわけではなく、しかも最近の経済状況は相当な逆風ですね…。先日でも有効求人倍率が0.5なんて数字も発表されていましたが、2人に1つの求人しかないというこのご時勢で、就労支援はホント厳しい状況にあるようです。

さてさて、そんな世の中の状況ではありますが、就労支援が進まないとどうなるのか…。利用者は増えていく一方で、施設はすぐに飽和状態になる。飽和状態になってしまうと、新たな利用者の受け入れができず、地域の中の福祉サービスとしては機能不全に陥ってしまう。それでは困るので箱物を増やして対応しようとする。するとそこには多額の資金が必要になる…。そうでなくとも、すぐに箱物ができるなんてことはないので、結局、施設利用は早い者勝ちみたいな、措置時代の悪しき風習に戻ってしまうってことになるんですかね…。

やはりそんなことは、良質の福祉サービス

を目指している事業者としてはあってはならないことなので、就労移行支援には必然的に力を入れていかなければいけないという発想になるわけです。これは、そもそも国が自立支援法の中で、就労支援と地域移行を柱として掲げた思惑と合致するわけで、始まった当初は悪法と言われた自立支援法ではありますが、よ～く中身を見てみると、一定の評価ができる制度と言えるわけです。

なんとなく話がずれてしまった気がしますが、要するに、こんなご時勢でも就労支援の流れを止めてしまうわけにはいかないの、より質の良い就労移行支援事業に取り組んでいこうと決意を新たにしているところです。

思わぬ決意表明になってしまいました。ステップに来て2ヶ月間、利用者の皆さんの仕事ぶりを見て今の感想は、「みんな就職できるんじゃない？」…。肝心なのはジョブマッチング（企業の仕事内容や環境がその人の能力や個性と合っているかどうか）です。どんなに能力が高くても、その企業の環境や仕事内容が合わなければ長くは続かないし、能力がそんなに高くなくても、企業がその人のことを必要と思ってくれば長く勤めることができるのです。過去に出会った事業主さんとの話で、「この人がいてくれることで従業員みんなが安全に気を付けるようになった」・・・そんなところに目を向けてくれる事業主さんが増えると、就労支援はもっともって進んでいきそうですね。そして、就労移行支援事業では、職業人としてのトレーニングもそうですが、何よりも利用者さんひとりひとりのニーズを聞き取り、適性を見極める「目」を支援者側が磨くことと、それに対応するべくサービス内容（取り組み内容）の充実を図ることこそ、今私たち支援者にもっとも求められていることのように感じています。

就労移行支援事業所ステップ 職員

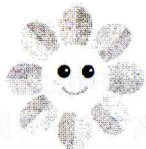
施設コーナー③

らちえっと

日中活動の紹介

H14年10月より愛知県の委託を受けスタートしました。どんなに強い力をくわえても、正しい方向にしか回転することのない歯車にしていきたいとの願いをこめて、このグループの名称を「らちえっと」と名付けました。

日中活動の内容



①アート（靴下染め）

靴下の仕入れから利用者の皆さんにさせていただき、自由に色付けをしていただいたり、ステンシルの型紙の上から、職員が手を添えて色をつけていたりしています（最近では、キャンバスを大きくしてTシャツを染めるのにもチャレンジしています。）

②体操（リハビリ）

以前は、理学療法士の先生に指導していただいていたのですが、現在は教えていただいた内容を維持して取り組んでいます。体を伸ばしたりすることに抵抗があったり、あまり好まない方もいましたが、今まで出来なかった姿勢が取れたり、自分で出来ることやリラックスできることが分ると自然に取り組むことが出来るようになっていきます。

③創作活動

季節ごとに作品を作り、五感で季節を感じていただけるように活動しています。5月は、大きな和紙に筆、スポンジや手足を作って色付けをし、周りをちぎって鯉のぼりの形にしました。らちえっと内に飾っていますので、ぜひご覧ください。

その他にも野菜中心のガーデニングや音楽活動、外出やプールや花火などの季節行事や地域行事に参加したりしています。

わたしたち職員は“らちえっと”の人たちから学ばせていただく多くのことを、かしの木の中心の歯車にし、その歯車を中心に他の歯車を回していくこと、そしてそれを決して誤った方向に回さないことを決意し、「らちえっと」の取り組みを育てていきたいと思っています。

「らちえっと」の皆さんの、精一杯生きる力と、驚くほど豊かな感性に導かれながら、ひとりひとりひかる人生に寄り添っていける取り組みを実践していきます。

（らちえっと 職員）



文芸コーナー

子どもたちへのプレゼント

「子どもたちへのプレゼント」と題した、ファン・シュパルの短編集は、ある粉屋の家族に起こった、とるに足らない、何の変哲もない、しかし意味深いできごとを扱っている。

孫のウィリアムに世の中のことをいろいろと教えてくれた祖母が死を迎えた。遺体が小部屋のひとつに安置されている。両親は、戸外に出ており、この男の子はただ一人居間にいる。遺体のある部屋からポトポトという音がきこえ、次第に回数が多くなっていく。少年はその部屋に誰もいないことを知っているののでいやな感じがする。するときしる音がきこえ、ランプのうしろに一つの影が見える。子どもにはもうたくさんだ。少年は外へ走り出し、大声で母親を呼んで、見たこと聞いたことを話す。

母親は一緒に家に入り、やっぱりポトポトという音を聞く。そこで遺体の間のドアを開け、何が起こって居るかを一目で見て取る。「ウィリアムいらっしやい」と母親は言った。「こわがらないで、どうしてポトポトいったのか自分で見てごらん。」そういって部屋に入り、お棺のそばに立った。「よくみてごらん、坊や」。母親は続けた。「お棺から右の床にたれているあの水滴を見てごらん。ポトポトという音をきいてごらん。あの水はおばさまの身体から出てくるんだよ。やさしいおばさまは、亡くなるときとても太っていたから、びっくりしなくてもいいんだよ。おまえがびっくりしたのはこれだけのことなんだよ。おまえは誰も見たわけじゃなかったんだよ。それとも見たとでもいうのかい。」「見たんだよ。」ウィリアムは答えたが、やっぱり何もなかったことになるのかなあという思いで混乱し、当惑していた。「ドアがきしむのがきこえたし、ランプのうしろに影がみえたんだよ。」「いいともさ。」母親はいった。「部屋へ入って見ようよ。ランプも同じ場所において、なにかへんなものが見えたり聞こえたりするかどうか確かめてみようよ。」二人は椅子に腰を下ろした。少年はやっと自由にあたりを見渡し、やがてさっき幽霊だと思ったのがふつうの影で

しかなかったことに気がついた。そのうちに、突風がドアをきしませた。「ウィリアム、聞いたかい。ドアがきしんだよ。なぜきしむと思ったんだい。」ウィリアム…「風だったよおっかさん。」母親…「わかるね坊や、こわがるわけなんかなかったんだよ。もうこわがるんじゃないよ。そうじゃなくて、ちょっと見ただけで説明できないようなことがあったらよく調べるんだよ。でないと、いわれもないのにびっくり仰天してずっと気がふれてしまうかもしれないからね。憶えておおき。神様がどこにでもいてくださるから、神様をうやまっていればこわがることなんてないんだよ。」ウィリアムは、この教訓を心に留め、いつもそれを守ったので、その後決して幽霊やお化けを見ることはなかった。

この本は、1833年にヨーロッパでベストセラーになったもので、当時の評論家は「愛児へのプレゼント」とするように勧めたとされている。

(中略) この本からは、その当時の親子関係が、水滴のしたたる祖母の遺体を主題にすることに異議を呈するようないふくはなかった、というふうに解釈するのが妥当であろう。(中略) 現代の祖父母たちは老人ホームで安らかな日々を送っているのだから、子どもにしろその他の家族にしろ病気になるのは死に接することがないばかりではなく、親たちは子どもたちに、死をそうしたリアリティーにおいて見せようなどとは考えさえしないであろう。(中略)

現代の我々は子どもを厳重に保護するようになってきている。昔の人たちはそれほど保護しはしなかった。われわれは、子どもはもともと死に関するものがらでは傷つきやすいものだと想定しがちだ…ところが、実は今では「傷つきやすくなってきている」のである。このことは、決して同じではないのである。子どもは傷つきやすくなったのであり、傷つきやすく「させられた」のである。心理学者たちは、子どもをもともと傷つきやすいのだと考えれば、保護しないわけにはいかないであろう。けれども、子どもは傷つきやすくなったのだと確認すれば、子どもたちを鍛える方策を案出することになる。

「引き裂かれた人間 引き裂く社会」から

J. H. van den Berg

お知らせコーナー

【行事予定 7月～9月】

7月5日(日) 障害者スポーツ大会
木曾川体育館

**7月19日(日) 第13回障害児・者太鼓
フェスティバル in 一宮**
時間・13:30～

場所・一宮市民会館

詳細は添付別紙をご覧ください

8月10日(月) 樫の木盆おどり

☆ ボランティアさん募集

毎月のレクレーション等の行事と一緒に楽しみたい方！作業と一緒に手伝ってくださる方！何でも結構です。先ずはご連絡ください

樫の木福祉会

かしの木の里 担当 武田、
樫の木園 担当 伊藤 まで
樫の木作業所 担当 山本

自主製品 販売中

樫の木園 ふらっとで、コーヒ販売
樫の木作業所 お掃除シート・ワイパー
お花販売
かしの木の里 ビーズ、革、とんぼ玉、陶芸、5本指靴下、手芸、押し花、木工、石鯨など

お近くにお越しの際は、是非、お立ち寄りご覧ください。

地域の人々に支えられ、地域の人々と共に

かしの木

かしの木の会 事務局 〒494-0018 愛知県一宮市富田字砂原 2147 番地 Tel 0586-63-2111

かしの木の里内 Fax 0586-61-1200

樫の木福祉会

- ☆樫の木作業所 一宮市富田字漆畑 16 番地 Tel/Fax 0586-61-6055/61-6514
- ☆樫の木園 一宮市富田字若宮 17 番地 Tel/Fax 0586-62-8202/62-8253
- ☆ステップ 一宮市明地字上平 35 番地の 1 Tel/Fax 0586-68-1207/68-1241
- ☆かしの木の里 一宮市富田字砂原 2147 番地 Tel/Fax 0586-63-2111/61-1200
- ☆かしの木サポートプラザ 一宮市北丹町 2 番地 Tel/Fax 0586-28-8288/28-8188
- ☆カフェふらっと 一宮市萩原町串作字女郎花 1617 番地 8 Tel 0586-67-5070
- ☆園芸センターさいた 一宮市西五城字山方 21-1 Tel/Fax 0586-62-0039
- ☆相談支援ゆんたく 一宮市北丹町 2 番地 Tel/Fax 0586-64-5882
- ☆就業・生活支援する一歩 一宮市明地字上平 35 番地の 1 Tel/Fax 0586-68-1207/68-1241
- ☆療育サポート事業 一宮市北丹町 2 番地 Tel/Fax 0586-28-8288/28-8188
- ☆G. H. Cはぎわら 一宮市萩原町串作字女郎花 1616 番地 3 Tel 0586-67-1787
- ☆みずきの家 一宮市萩原町串作字女郎花 1616 番地 3 Tel 0586-67-1787
- ☆こぶしの家 一宮市開明西石亀 43 番地 5 Tel 0586-44-3972
- ☆あおきの家 一宮市萩原町串作字女郎花 1580 番地 1 Tel 0586-69-8881